

問

人口減少に立ち向かう町の対策は

町長

住み続けられる町づくりに徹する

人口減少の現状

問 多くの町民の心配事である人口減少問題だが、近年の人口減少の推移は。

町長 令和2年が79人、令和3年が71人の減少で、令和4年は出生と死亡の差による自然減が64人、転出と転入の差による社会減が39人の合計103人の減少となった。

これまでの成果

問 人口減少に関わるさまざまな事業に取り組んできたが、成果を上げた事業は。

町長 空き家活用定住対策補助金や店舗出店等支援事業補助金は移住に繋がり成果を上げた。また、こども園や医療費無償化などの子育て支援も喜ばれている。

結婚を望む方の希望

問 実現することも人口問題のポイントとなるが、婚活支援の考えは。

町長 独身の農業後継者が多いのが事実である。若者からは、クリスマス時期のイベント開催やキャンプ開催の要望などがある。若者自身に計画の主体となってもらい、関係機関と協力しながら進めたい。

町の魅力発信

問 町内外への訓子府の魅力発信はどのように行ってきたか。

町長 首都圏での移住フェアに参加し、10数件の相談を受けた。対外的なPRが弱いので、ホームページやSNSを活用していきたいと考えている。

交流人口・関係人口

問 定住人口とは別の交流人口や関係人口を増やす取り組みの現状と今後の方針は。

町長 町外からも多くの人が訪れるふるさとまつりやさむさむまつりの開催、武蔵野美術大学との連携、返礼品で特産物のPRもできるふるさと納税、姉妹町津野町との交流事業などさまざまな取り組みを実施している。

持続可能なまちであるために

問 人口減少によって予想される町の財政面の影響は。

町長 一般的には、生産人口が減少し経済的に縮小することにより、住民税などが減収になる。また、人口を算出基礎とする普通交付税が減少する見込みである。

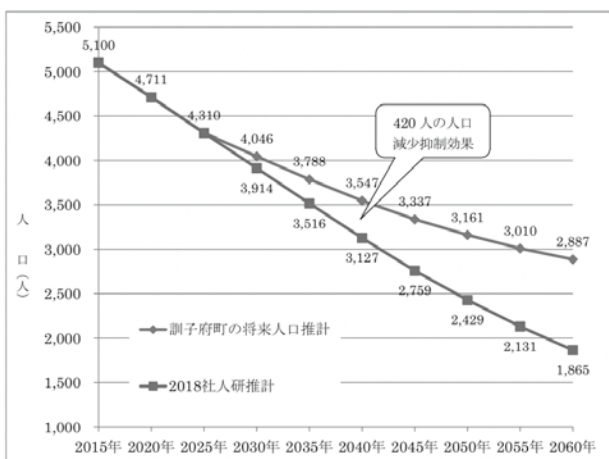
問 町民の心配は、生活にどのような影響があるのかということだ。

町長 人口が千人になっても町は生きていける。町民自身が町は滅びないという確信を持ってほしい。行政は安心して住み続けられる町づくりに徹するべきだと考えている。

いづみ 泉 ゆみ 愉美 議員

今年の夏こそ運動する！

町長 商工業の後継者や新規雇用に助成をしている。



本町の将来人口推計



泉議員の一般質問を視聴できます